

市民と市長の対話集会

「つながるまち小郡」を語ろう！

会 議 録（要約）

説明) 地域公共交通活性化協議会設置による多様な生活支援を目的とする交通体系の構築について

(会場：ひまわり館東野)

○地域公共交通活性化協議会設置による多様な生活支援を 目的とする交通体系の構築について

加地市長：

小郡市は交通の要衝で、大変便利なところです。市内に高速道路も通っており、車があればどこにでも簡単に行ける環境です。西鉄と甘鉄の駅も7つあり、公共交通をうまく使えば便利な地域なのですが、駅からちょっと離れてしまうと不便なのが現状です。

本日のテーマは「地域公共交通活性化協議会設置による多様な生活支援を目的とする交通体系の構築について」。固く聞こえますが、要は、地域の交通手段をどうしましょうか？ということについての話をしていきたいと思います。

初めに、この取り組みで設置したいと考えている「地域公共交通活性化協議会」とはどのような組織なのかをご説明します。この協議会は、鉄道、バス、タクシーなどの公共交通事業を直接運営している関係者や、地域の代表や公募による市民の皆さんで構成される組織で、「小郡市に買い物や通院のような日常生活に密着した公共交通網をどのように作るか」ということを考えていく場です。

続いて、小郡市の公共交通の現状と課題についてお話しします。

小郡市では、西鉄と甘木鉄道、そして市のコミュニティバスが運行されています。これまで、小郡市のコミュニティバスは、公共施設へのアクセス手段として運行されてきました。バスの行き場所はどこなのかを見てみると市役所、あすてらす、生涯学習センターと公共施設巡りになっています。しかし、本当に市民の皆さんが行きたい場所は違う場所なのではないか？と調べていろいろお話をお聞きしたところ、もっと日常生活に密着した場所に行きたいのではないかと考えました。

もちろんコミュニティバスにも台数の制限がありますから、市内全域を満遍なくカバーすることはできません。コミュニティバス以外のいろいろな手段や公共交通機関との連携も考え、どのように地域の皆さんの交通手段をつないでいくかを考える必要があります。

また、具体的にどういった場所を回るのか。日常生活に必要で、必ず行かなければいけない場所はどこですか、ということを見ると、定期的な通院が必要な病院やお買い物など、生活を維持するために大事な場所がたくさんありますから、まずそういった場所を中心にどんなルートにするかを考えていきたいです。

7月に開催した市民みんなでサービスチェックで、市民や有識者の皆さんからいただいた主なご意見は次のとおりです。

H30 年度 市民と市長の対話集会 地域公共交通活性化協議会設置による 多様な生活支援を目的とする交通体系の構築について

・「今後の高齢化の進展とともにコミュニティバスの重要性は増してくると思われる。」交通手段自体をしっかりともってほしいという意見は強いわけです。

・「現在のコミュニティバスの停留所ごとの乗降人数や、利用区間の調査は検討に必要なデータだと思う」現在誰がどんな目的でどこで乗り降りしているのか、それを行政としてちゃんと把握してください、というご意見です。

・「乗り合いタクシー、事業者のバスの活用、自治会バスと連携も図りながら充実した交通体系を作ってほしい」市のコミュニティバスだけではすべてをカバーすることはできないと皆さんよくご存じで、市民の方も専門家の方もこのようなご意見を寄せられます。

今、他の地域でやっている乗合タクシーや、事業者のバスの活用、たとえばスイミングスクールのバスがあるとして、使う時間帯は大体放課後子どもたちの学校が終わった後でしょうから、空いている時間帯に活用させてもらう、そういう連携もできるのではないかと考えています。

あるいは自治会バス。現在小郡市ではのぞみが丘校区と御原校区で運行されていますが、自治会が、区民の中からボランティアの運転手さんを募って自主運営する、といったバスもございます。こういった交通手段を組み合わせながら交通網づくりに取り組んでほしいというご意見がでてきました。

さて、以上の課題やご意見を踏まえまして、協議会を設置し、協議していきたいと考えている内容は大きく2つです。

1つは「日常生活に密着したコミュニティバスのありかたを考えること」。まず現在運行中のコミュニティバスの利用実態を調査・分析し、その結果をもとに問題点や課題を取り出し、ルートをガラッと組みなおすことです。

そして2つめは「コミュニティバスでカバーできない部分に、コミュニティバス以外の公共交通を検討していくこと」です。コミュニティバス以外の交通手段をうまく組み合わせることで、色々な可能性を探る。それを地域の皆さんと一緒に「この地域の人たちはこことつながると便利だな」「こういう風になると生活がしやすいね」ということを話し合うことで、交通網を作り上げていきたいと考えています。

現在小郡市では高齢者の方の免許返納も推進しておりまして、返納してくださる方もたくさんいらっしゃいます。これは県下でも多い方なんだそうです。大変ありがたいことですが、ただ、「返納した後移動手段はどうなるの？」ということは皆さんとても気になるところなんです。これは交通手段の確保とワンセットで考えていかなければならないことだと思っています。

この会議を設置して、コミュニティバスを柱としながら、他の公共交通手段の連携やそのほかの可能性を探りながら、小郡市の新たな交通網を皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えています。